

碁檀越、伊勢国に行く時に、留まれる妻の作
る歌一首

五〇〇番

神風の伊勢の浜荻 折り伏せて 旅寝やすらむ
荒き浜辺に

柿本朝臣人麻呂の歌三首

五〇一番

娘子らが 袖布留山の 瑞垣の 久しき時ゆ 思
ひき我は

五〇二番

夏野行く 小鹿の角の 東の間も 妹が心を 忘
れて思へや

五〇三番

玉衣の さるさるしづみ 家の妹に 物言はず来
にて 思ひかねつも